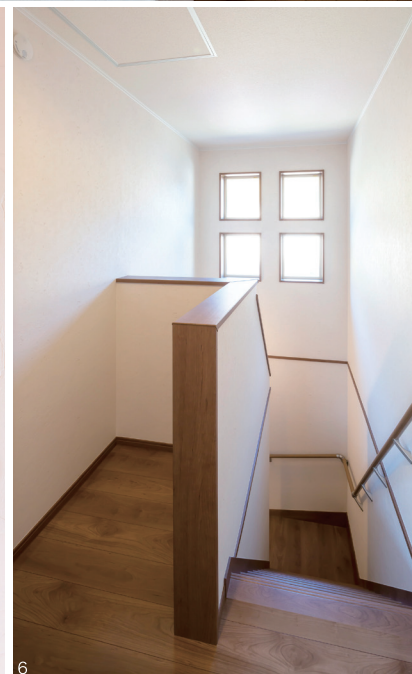


1,600万円～2,500万円の家

case.05

外断熱

- 快適と健康を支える外断熱工法の家
- 耐震性を特に意識した構造
- 地域型住宅グリーン化事業対象



- 1.片流れのスタイリッシュな外観デザイン。実際の建坪よりも大きく見える
- 2.キッチンから見るリビング。LDK全体では20畳弱の広々空間
- 3.木の温もりが印象的な板張り天井のリビング。素材は県産スギ材
- 4.2階洋室は壁の1面のみデザインクロスを採用してアクセントに
- 5.主寝室はリビングの音が気にならず、ユーティリティにはアクセスしやすい場所に
- 6.採光とデザインに配慮した開口部で階段も暗くならない
- 7.壁の厚みを活用した収納スペースも外断熱の家ならではの

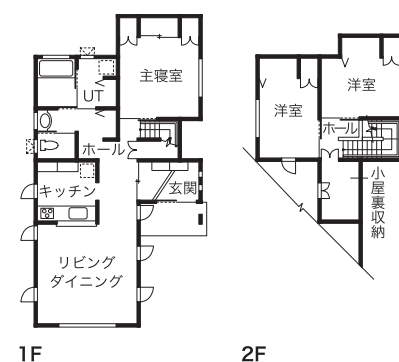
建築データ

- 構造規模 ■ 木造(軸組工法)・2階建て
 延床面積 ■ 107.64㎡(約32坪)
 主な外部仕上げ ■ 屋根/ガルバリウム鋼板、外壁/防火サイディング、建具/玄関
 ドア:断熱ドア、窓:樹脂サッシ(ペアガラス・アルゴンガス入)
 主な内部仕上げ ■ 床/フローリング、壁・天井/ビニールクロス
 断熱仕様 ■ <外張断熱>基礎・壁・天井・屋根/A種押出法ポリスチレンフォーム保温板3種50mm
 暖房方式 ■ エアコン

未来へ繋げる地域住宅生産者グループ

問い合わせ先
 設計・施工/大東ハウジング(株)
<http://daitojyutaku.co.jp>
 黒川郡大和町鶴巣太田字幸町田24-5
 TEL.022-343-2481

平面図



制震ユニット「ミライエ」を採用し、高齢者にとっても安心しておだやかに暮らせる新居となりました。なお、この住まいは宮城県産スギ材を使用した「地域型住宅グリーン化事業」の対象物件で、長期優良住宅仕様となっています。

高齢者の暮らしに配慮した 温度差のない快適な住まい

沿岸部に建つTさん宅は震災に伴う避難道路拡張工事の影響で、以前よりも敷地の狭くなった状態での建て替えとなりました。その条件の中で特にこだわったのが、「できるだけ元の生活スタイルを尊重すること」「高齢の両親に配慮した暮らしやすい空間であること」。これらの希望を具現化したのが、大東ハウジングの外断熱の家です。

足が不自由な父親は車椅子を使用することもあるため、居室はすべて洋室とし、1階の水まわりや廊下幅はゆとり確保したほか玄関にはスロープも設けました。家族団らんのリビングは南面に配置。隣地建物との兼ね合いから採光不足も予想されたので、東側に高窓を設けるなど、コンパクト設計ながらも明るく開放的な空間となっています。

目に見える部分だけではありません。最大の特徴は、見えない部分の快適性にあります。「以前の家はとにかく寒かった」とのことですが、基礎から壁、屋根に至るまで断熱材ですっぽり建物を包んだ外断熱工法の家なので、もう家のどこにいても寒さを感じることはありません。温度差のない空間でヒートショックを防止するほか、気密性に優れた構造で道路の騒音もシャットアウト。また、躯体は強度に優れた積層材JWOOD・LVLと